



令和の里海づくりモデル事業

「令和の里海づくり」モデル事業について

里海(さとうみ)とは

人の暮らしと自然の営みがともにある海辺のこと。

海にほどよく人の手や営みが加わることで高い生産性と独自の生態系が生まれ、そこから水産資源(魚や海藻)など豊かな恵みがもたらされる。

「里海」は1998年に提唱され、25年が経過・・・

「令和の里海づくり」

地域の多様な主体が参加・連携して行う藻場・干潟等の保全・再生等(里海づくり)にとどまらず、地域の課題の解決を図るため、利活用(ヒト・モノ・資金などを呼び込む)の好循環を生み出すこと

➤ 環境省では令和4年度から「令和の里海づくり」モデル事業を開始



大阪府の採択経過 (取組テーマ：都市における新たな里海づくりの在り方)

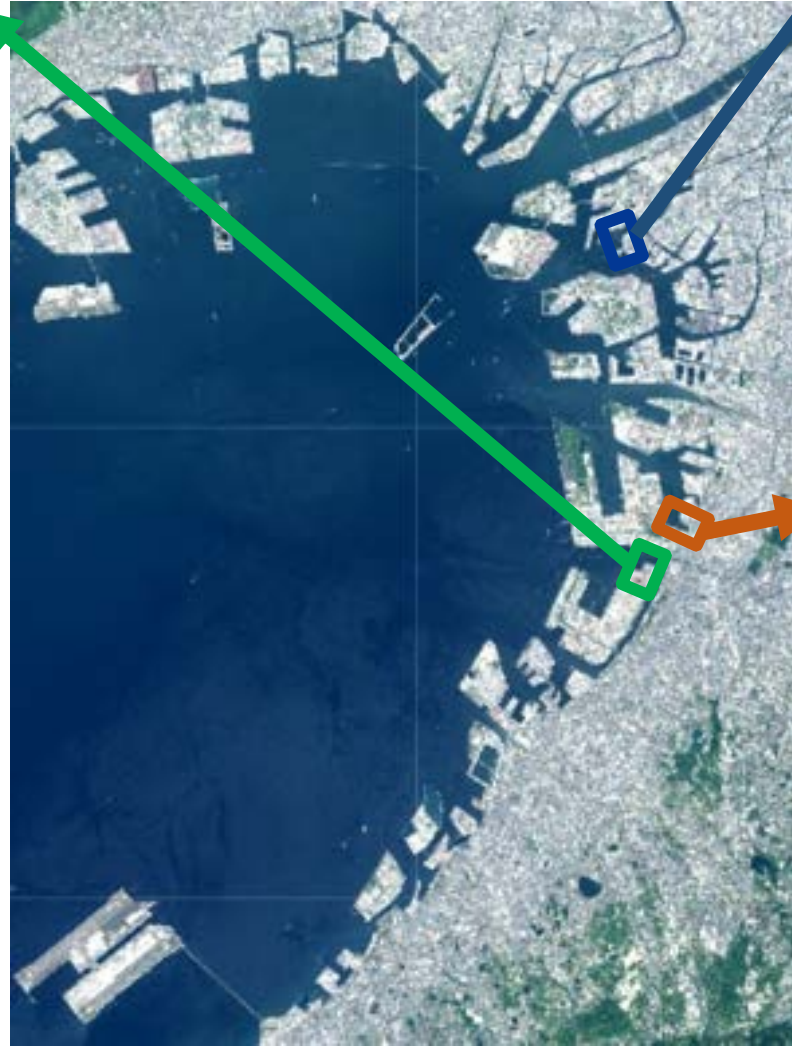
令和4年度 ENEOS株式会社堺製油所・大阪府共同提案：堺泉北港泉北1区での企業参加型藻場づくり

令和5年度 大阪府提案：大阪湾奥部における生き物と触れ合える場の創出と利活用の推進

令和6年度 (一財)環境事業協会・大阪府共同提案：大阪湾奥部と人・街を“つなぐ”プロジェクト

大阪湾奥部における令和の里海づくりモデル事業実施場所

R4年度 堺泉北港泉北1区(藻場の創出)



R5年度 大阪港天保山(生物生息場創出)



R5・R6年度 堺泉北港南泊地(干潟の再生)



①令和4年度 令和の里海づくりモデル事業〔堺泉北港泉北1区での企業参加型藻場づくり〕

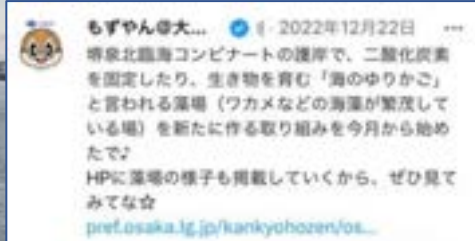
企業隣接の未使用護岸における藻場の創出及び効果的なモニタリングの検討

- 小規模な環境改善技術である生育基盤の整備を行うとともに、藻類のタネ(遊走子)の供給源として海藻の種糸を設置。水中カメラ等を用いて藻類の生育状況のモニタリングを実施。

地域住民等への情報発信・持続可能な好循環形成の検討

- 地域住民と地元の海とのつながりを構築するため、広報誌やSNSを活用し、わかりやすく発信。

基質設置 (R4.12.13)



モニタリング (R5.1~2)



【基質設置により新たに確認できた海藻類】

- ・アオサ
- ・シオミドロ
- ・イギス
- ・エナスタジア

モニタリング (R6.3)

- 基質の位置を移動し、ワカメ・コンブでの実証



水深約5mの海底に設置



海遊館に来られる、年間200万人以上を超える国内外の来場者に対して、目の前にある大阪湾奥部の“うみ”と“つながる”機会の仕掛けづくり

令和5年度 の 取組内容



底生生物や魚類等の生物生息空間となる簡易な仕掛けの検討・設置

- 海遊館の西側護岸に底生生物や魚類等の生物生息空間を創出するため、中高生が自ら設置物の検討・設置や観察を実施



天保山周辺護岸における環境学習等の“うみ”と“つながる”動画作成(海遊館内で企画展示)

- 水中ドローンで撮影した護岸周辺の生物の様子と天保山周辺護岸で実施した環境学習等の様子についてまとめた動画「豊かな大阪湾をめざして(大阪湾の SATOUMI STORY)」やパネル・リーフレットを作成



大阪湾への興味・関心を一層持ち、大阪湾と“つながる”アイデア検討

- 海遊館来場者が、大阪湾への興味・関心を一層持ち、大阪湾とつながる機会が増えるアイデアを自由に検討

・底生生物や魚類等の生物生息空間となる簡易な仕掛けの検討・設置

令和の里海づくりモデル事業での取組

成果

- 海遊館周辺の護岸に地元の中高校生が考案、作成した仕掛けを設置することにより、フジツボやムラサキイガイ、ホヤ、ウミウシなどが確認され、生物生息場として機能。仕掛けの形状により定着する生物の傾向も確認された。
- 高校と地域水族館との連携により、大阪湾に豊かな生物が生息していることを環境学習を通じて、理解を促進した。



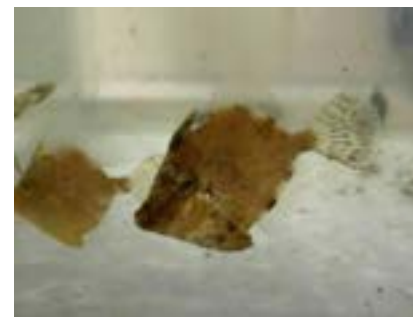
仕掛け設置



生物観察会



設置した仕掛け



仕掛けで見つかった生き物

- ・天保山周辺護岸における環境学習等の“うみ”と“つながる”動画作成(海遊館内で企画展示)
- ・大阪湾への興味・関心を一層持ち、大阪湾と“つながる”アイデア検討

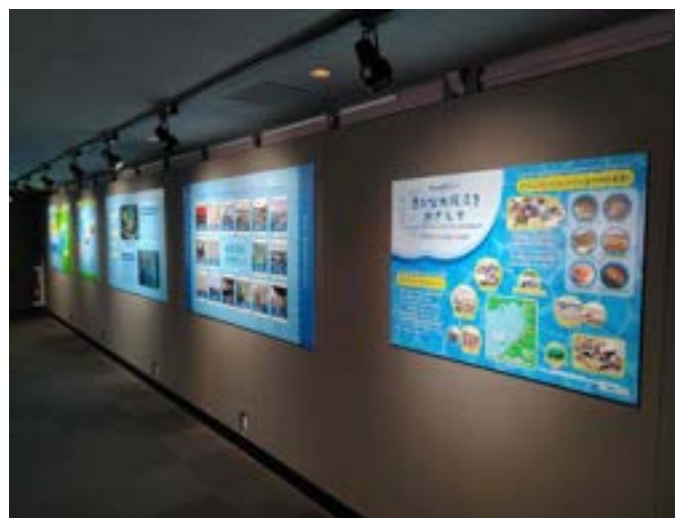
令和の里海づくりモデル事業での取組

成果

- ・ プロモーション・普及啓発で活用する動画等の制作し、YouTubeにて広く公開した。
- ・ 制作した動画や里海づくりのパネル、リーフレットを海遊館内企画展に展示し、府民に広く周知した。
- ・ 仕掛けの効果や連携体制、観光施設から大阪湾へどう繋げるかなどを、参加した中高生を中心に検討した。



動画「豊かな大阪湾をめざして(大阪湾の SATOUMI STORY)」



ミニ企画展「ええところあるやん！大阪湾」



パネル・リーフレット「豊かな大阪湾をめざして」



アサリ等の二枚貝や甲殻類の生息が確認された湾奥部の港湾エリアにある貴重な浅場(砂泥が自然に堆積し干潟状になっている海域)で里海づくりの体制づくり

令和5年度の実施内容



干潟に生息する生き物の隠れ場等となる、「試行的なしかけ」を検討・設置

- 干潟の生物生息空間を創出するため、試行的にしかけ(網袋・潮だまり)を検討・設置



生き物の生息の場としての環境調査

- 来年度のために、底生生物、魚類等の生息状況やしかけ設置の効果を調査



大学生と一緒に次年度に向けた里海づくりの将来像や取組内容を検討

- 里海づくりにおける課題等を検討するとともに、本事業対象地における里海づくりの在り方(将来像)、次年度以降の具体的な取組内容を取りまとめ

- ・干潟に生息する生き物の隠れ場等となる、「試行的なしかけ」を検討・設置
- ・生き物の生息の場としての環境調査

令和の里海づくりモデル事業での取組

成果

- ・大阪公立大学等と連携した潮だまりや網袋(アサリ等の二枚貝の保全)の設置によりアサリやホトトギスガイ、ゴカイ類やキチヌなどの魚類、甲殻類などが確認され、生物生息場としての機能を確認した。
- ・水質、底質調査、底生生物調査、アサリの分布調査等を行い、生物生息環境を把握した。



網袋の設置



潮だまりの設置



・大学生と一緒に次年度に向けた里海づくりの将来像や取組内容を検討

令和の里海づくりモデル事業での取組

成果

・ 大学と連携したワークショップの開催により、本フィールドの今後の活用展開について議論し、将来像を検討した。



ワークショップの様子



里海づくりの将来像

令和6年度 大阪府の令和の里海づくりモデル事業



大阪湾奥部と人・街を“つなぐ”プロジェクト～「なにわCHISHIKI浜」を拠点とした里海づくりの活性化～

- 大学生による堺泉北港南泊地(なにわCHISHIKI浜)の「里海の将来像」を基に、地域資源の環境価値を高める里海づくり
- 大阪湾の里海づくりのファンを増やすため、都市部で身近に大阪湾に触れる機会を創出

若者世代が主体的に関わる里海づくり

- 大学生と関係機関等が連携し、里海づくり(海ごみ拾い、耕耘作業、生きもの調査などを想定)の本格実施

【里海の将来像】

ちしきの なにわ CHISHIKI 浜		
千色	×	知識
豊かな生物層と 多様な取組が 生まれる場所		環境学習や 研究の知見が 集積する場所

【生き物の住み家（環境学習用）】



【保全活動（左：海ごみ拾い、中：生きもの調査、右：人工耕耘）】



出典：環境省HP（樅野川河口域・干潟自然再生）

都市部とつなぐ大阪湾の里海ファンづくり

- 都市部(阪急百貨店梅田本店8階GREENAGEを想定)で大阪湾の魅力を感じられるプログラムを実施

【大阪湾の海中体験（VR）】



【ワークショップイメージ】



- 大阪湾で水揚げされた海産物をシェフ監修のもとメニュー考案し、都市公園で開催されるマルシェで販売。販売には里海づくりに参加の大学生等がPR

【マルシェのイメージ】



クロダイ

キジハタ